

## 3 学年の実践記録

### (1) 主題に迫るための具体的な手立て

〔手立て1〕

- ・大蔵の自慢（他にはないすばらしいところ）について調べ、大蔵の人・もの・ことに主体的に関わっていく活動を通して、大蔵のよさに気づき、大蔵のまちの一員として郷土への思いを深める。
- ・課題解決のために見学やインタビューなどの情報の収集を行った後に、大蔵の自慢という視点で各グループで整理・分析させ、まとめる活動へとつなげていく。

・〔手立て2〕

- ・課題を見付けるために上級生や保護者に大蔵の自慢と思うところのアンケートを取り、その結果も参考にしながら調べたい課題を話し合い決めていく。
- ・話し合いの場面では、各グループの発表を受けて、課題別のグループで大蔵の自慢と思った理由を出し合い、全体で自慢と位置付ける理由を話し合っていく。その話し合いを通して、大蔵の自慢の価値付けを行っていく。

〔手立て3〕

- ・社会科や国語科との関連を図り、大蔵の自慢を課題別グループで町に出かけ、インタビューしたり写真や資料等を活用したりしてまとめていく。
- ・課題別グループでの調べ活動や第三次の話し合いの場面では、各教科等での言語活動を生かし、手段・場・方法を工夫した伝え合い発信する場を単元の中に位置付ける。

### (2) 研究の実際と考察

〔手立て1〕

自分の課題について調べ、まとめる際には、問題解決の方法を学んでいきながらまとめた。児童は、課題別グループで実際に町に出かけて地域の方にインタビューや見学をしたり、大蔵川に入って生き物や植物の調査をしたりした。(資料1)

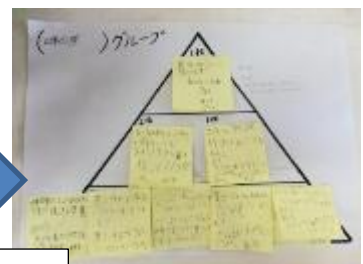


地域の方にインタビューや見学・生き物や植物の調査(資料1)

その後、課題別グループで相談しながらインタビューしたことを整理したり、図鑑や資料を使って調べたりして調べたことをまとめた。(資料2)その中から、自分が大蔵の自慢と思うこととその理由を付箋に書いた。次の時間に大蔵の自慢の付箋を課題別グループで持ち寄って、似ているもの大切と思うものを話し合い、整理分析した。そして、課題別グループごとに、自慢ベスト3を決めた。(資料3)



資料2



資料3

その自慢ベスト3をクラスの友達に発表するために、どんな方法でまとめるかを課題別グループで話合った。去年の3年生の資料を見せて、ペープサート、紙芝居、文と資料などの中から選びまとめていった。児童は、自分たちの決めた自慢ベスト3を分かりやすく伝える方法を工夫しながらまとめていた。

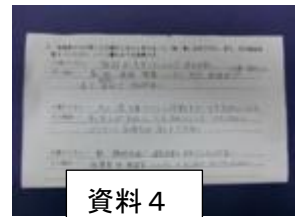
〔手立て2〕

課題を見つけるために、まず昨年度の生活科の「とびだせ！大くらたんけんたい」の学習を振り返り、児童から自慢と思うところを出させた。話し合いの中で、児童から「他にもっと自慢は、ないかな。」「自慢は、町の人なら知っているかも。」「上級生なら知っているかもしれない。聞いてみたい。」という意見が出た。そこで、次の総合の時間までに地域の人や上級生に聞いておくこととアンケートでの調査を行うことにした。

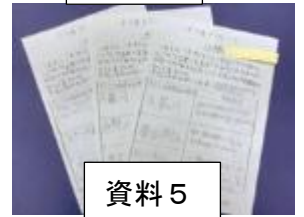
そして、次の時間にインタビューの結果を児童が発表したり、保護者(資料4)や上級生(資料5)にアンケートを取った結果をランキング形式にして児童に提示したりした。(資料6)児童は、自分たちの知らない自慢やそのわけに興味を持って聞いていた。その後の話し合いで調査結果を含めて、6つの自慢に整理することができた。それは、「大蔵川・天心の酒造り・味の源の醤油造り・子ども見守り隊・大蔵の祭」である。

こうして、「大蔵の自慢を調べよう。」という課題を設定することができた。児童は、保護者や上級生のインタビューやアンケート結果から大蔵の自慢が広がり、調べてみたいという意欲を持つことができた。

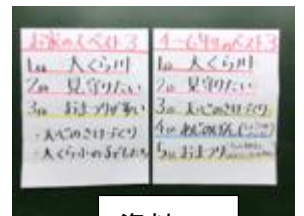
話し合いの場面では、各グループの発表(資料7)を聞いた後に、そのグループの大蔵の自慢と思うわけを話し合った。(資料8)児童は、他のグループの発表に興味を持って聞いていた。発表を聞いたり、話し合いをしたりする活動を通して、児童は他のグループの大蔵の自慢にも気付くことができた。



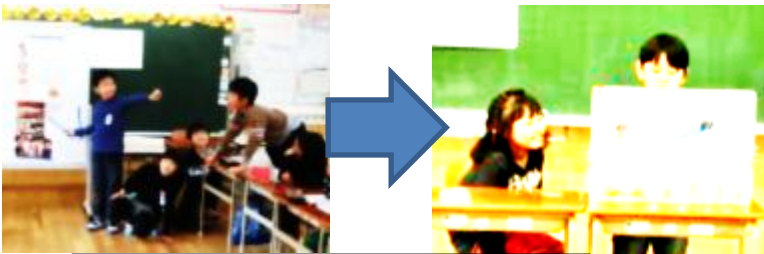
資料4



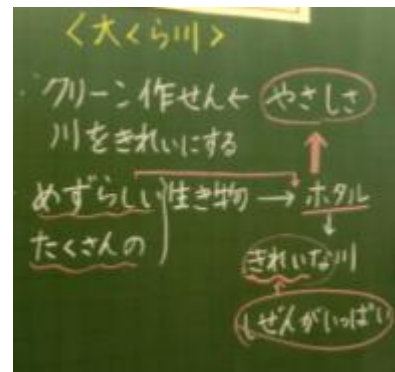
資料5



資料6



自慢について発表する児童(資料7)



自慢の話し合いの板書(資料8)

その後の学習で、大蔵の自慢の共通点を見つけた。そして、共通点をキャッチフレーズにまとめていった。

学習活動	教師の発問(T)と児童の反応(C)
大蔵のそれぞれの自慢の共通点を話し合い、大蔵のまちのキャッチフレーズを作る。	T大蔵にはどんな自慢がありますか。 C努力する町だと思います。川をきれいにするために努力する人がいるし、天心のお酒を造り続ける溝上さんも努力しているからです。 Tもし、大蔵の町の人がその努力をやめてしまったら。 C川が昔みたいに汚くなって、魚やホタルが棲めなくなります。 Tそうなんだね。 Cがんばる町です。祭を楽しくするためにがんばる人もいるし、汚い川をクリーン作戦で初めてきれいにした人もいますから。

C 優しい町です。1か月前から祭りの準備をする優しい心や子ども見守り隊の子どもの安全を守る優しさがあるからです・

～中略～

T この言葉の中から、大蔵の町にぴったりの言葉はどれですか。似ているのはどれですか。

C 「自然」と「きれい」が似ています。

C 自然に賛成です。わけは、大蔵川に昆虫や植物がたくさんあるから、自然がぴったりです。

C 自然に賛成です。わけは、自然があるから、きれいでおいしい水が出るし、だからおいしいお酒ができるからです。

T では、自然に決めていいですか。他に似ているのは。

C 「続く」と「優しさ」が似ています。わたしは、優しさに賛成です。わけは、お祭りを続けられるのは、町の人の優しさがあるからです。

C クリーン作戦が続くのは、川や生き物に対する優しさがあるからだと思います。

C 子ども見守り隊が毎日立ってくれるのは、優しさがあるからです。

～中略～

T この4つの言葉、1つの文にできませんか。

C 「自然いっぱい優しさいっぱいやる気ががんばる大蔵の町」です。

C 最高にいいのできたね。



下線部分の児童の発言からもキャッチフレーズにまとめる学習を通して、大蔵の町の自慢に気付いていることが分かる。また、自慢について話し合う学習を通して、自分が調べた自慢だけでなく、大蔵の町に対する思いが膨らんでいることが、自慢の理由の中に出ていた。

授業の終末では、町のために自分がやりたいこと出し合った。児童は、大蔵の町に対する思いを深めていった。下記の児童の記述からも見て取れる。

Y児

ぼくは、見守り隊に元気に挨拶をしたいです。わけは、見守り隊の人たちは、暑い日も寒い日も僕たちを見守ってくれるから挨拶をがんばりたいです。

S児

自慢を知らせてほしいです。大蔵の町は、やる気や自然や優しさがあるから、この大蔵の町の自慢を町の人や他の町にも知らせてほしいです。

T児

ごみを捨てないようにしたいです。ごみを川に捨てたら、川にいる絶滅危惧種のオヤニラミが棲めなくなってしまうから、ごみを拾ってきれいな大蔵にしたいです。

また、地域の方(G.T)からこれまでの発表やキャッチフレーズ作りへの賞賛と、この自慢を知らない大蔵の町の人にも伝えてほしいというお話をしていただいた。このことで、町の自慢を、伝えたいという児童の意欲が高まった。



〔手立て3〕

本単元と同時並行的に社会科で「八幡東西区のまちのようす」の学習をし、大蔵のまち探検に行き、大蔵の町のようすを地図にまとめた。そして、大蔵のまちの様子と八幡東西区のまちの様子を写真などで比べ、共通点や相違点を話合った。その結果、大蔵のまちの様子や特色が明確になって行った。



国語科校長先生へのインタビュー(資料9)

総合・地域の方へのインタビュー(資料10)

また、国語科の「話し合って決めよう」の学習で、課題を決めインタビューの準備をして、適切な言葉づかいでインタビューすることを学習(資料9)した。この学習を活かして、児童は課題を決めて地域の方へのインタビュー(資料10)をすることができた。

さらに課題別のグループでの話し合いでは、国語科の「話し合って決めよう」の中で学習した「話し合いの手順」「発言の仕方」「司会者の役割」を活かした話し合いを行った。その結果、グループでの話し合いのルールを身に付けることができた。また、自慢をキャッチフレーズにまとめる学習では、学級活動の「学級目標を決めよう」の学習の話し合いの手法を活かし、大切な言葉と言葉をつなげることができた。

(3) 成果と課題

〔成果〕

- 課題解決のために情報の収集を行った後に、大蔵の自慢という視点で整理・分析させ、まとめる活動を総合的な学習の入門期である3年生という実態から、時間をかけて丁寧に行った。その結果、児童が自分たちの手で三つの自慢を見つけることができたという達成感を持つことができた。児童の学習後の自分の自慢ベスト3の中にもその感想が出ていた。(資料11)

- 国語科との関連を図り、話し合い活動やインタビュー活動を位置づけたことで、児童は話し合いの方法やインタビューの仕方が分かった。そこで、自分たちが調べたいことを話し合ったり、インタビューしたり、まとめたりすることができた。



資料11

自慢ベスト3をチームで決めたこと。  
理由 前は、先生に教えてくれて先生ばかりによつていただけベスト3を決める時は、チームをけて決めたことがベスト3です。

- アンケートの結果も80%の児童が教科の学習を総合的な時間の学習に思い出して使うことができたと言った。また、96%の児童が大蔵のまちや人を調べたり友達と一緒に学習したりして自分の考えが広がったと言った。このことから、児童は教科関連のよさや共同して学ぶよさを感じることができたと考える。

- 本単元では、大蔵の自慢(他にはないすばらしいところ)について調べ、大蔵の人・もの・ことに主体的に関わっていく活動を通して、大蔵のよさに気付き、大蔵のまちの一員として郷土への思いを深めていく取り組みを行った。そのために、各グループの発表を受けて、課題別のグループで大蔵の自慢と思った理由を出し合い、全体で自慢と位置付ける理由を話し合い、大蔵の自慢キャッチフレーズにまとめた。また、学習全体に関わって下さった芳賀さんにも賞賛していただいた。その結果、児童は大蔵の自慢に気づき、町への思いを深めていくことができた。

- 単元全体の評価規準、各学習過程の評価など教師による学習評価、振り返りカード、ポートフォリオに加え、自分の成長ベスト3(資料12)や友達からのよいところ見付け(資料13・14)を行った。その結果、児童は、自分の成長や自分では気付かなか

自慢発見! 大くらたんけんたい

1位

2位

3位

理由 前は、先生に教えてくれて先生ばかりによつていただけベスト3を決める時は、チームをけて決めたことがベスト3です。

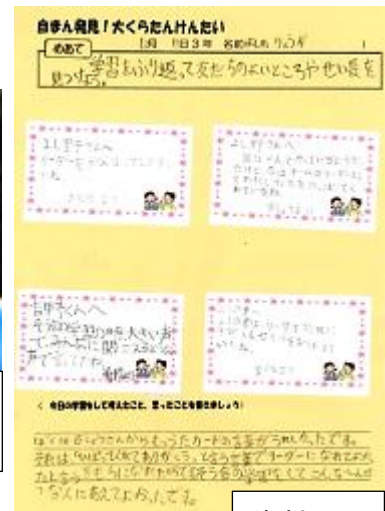
資料12

ったよさに気づき，自尊心を高め，意欲や主体性を見取ることができた。

ぼくは、M さんからもらったカードの言葉がうれしかったです。それは、「みんなをひっぱってくれてありがとう。」という言葉でリーダーになれてよかったと思いました。総合の学習をして親切な友達にあえてよかったです。



カードをもらって喜ぶ  
児童(資料13)



資料14

〔課題〕

- 大蔵のまちのよさをより実感できるようにするためには，人との関わりを繰り返し行う必要がある。
- 各教科での力をしっかりと付け，総合的な学習の時間でその力が活用できるようにしていく必要性を感じる。
- 総合的な学習に児童の学習を活かしていくために，各教科との関連性について見直し，さらに関連性を深めていく必要がある。